

# 緑友

No. 71

1990年2月 発行

題字 今井直一筆

## 第32回 全国印刷緑友会金沢大会



いとしおもしろい  
百万石の城下町 金沢



全国印刷緑友会会長  
城戸 憲次

## 第32回 全国印刷緑友会 全国大会を終えて

全国印刷緑友会会員の皆様には、お揃いで良き新年をお迎えのことと存じます。

昨年は平成という年号とは裏腹に、国の内外に急激な変化がみられ、ただ只驚くばかりといった状況でありましたが、皆様には内需拡大と消費税導入などの需要増によりきつと良い業績を残されたことと存じます。今年は平成2年、そして90年代への突入の年という節目の年を迎え、予測の難しさと一種の慌ただしささえ感ずる年の初めとなったのではないのでしょうか。

さて、さる8月26日・27日に開催されました、第32回全国印刷緑友会金沢大会には、全国各地より37団体、350名という沢山の方々にご参加いただきましたこと、会長として緑友の厚き友情に心より感謝致しております。

又、この金沢大会を機に、「大牟田印刷共同組合青年部」の皆様が加入されましたが、緑友の仲間がまた1グループ増えたことを皆さんと共に心から喜びたいと思います。

この金沢大会でもう一つ心に残ったことは、佐賀の宮地君の事例発表です。事例発表とは、結局自分の全てをさらけ出すことになるわけですし、一口に事例発表と言っても相当の覚悟がいると思います。人のために何かをする、何かが出来る、ということは、自分の為になんかしてくれる人が必ず出て来てくれることに通じると私は信じています。本当にありがとうございました。

この大会を通じて、会員の皆様には何を感じ、何を得て下さったのでしょうか？ 20世紀最後の10年、私達青年印刷人は、何を学び、何をしなければならないのでしょうか？……それは、真の生き残りのための知恵を身につける事だと考えます。

それには、解らないことは聞き、知っていることは教えること、そのための人間関係を作ることだと思います。それによって私達はずっと強くなり、大きくなっていかなければならないのだと考えます。

間違いなく21世紀になっても、私達は10歳年たった仲間として印刷業に従事していることでしょう。そのとき、全国に心の通じ合える友がいることが、どんなに力強いものになるかを思うとき、緑友の存在が大きくクローズアップされてくるのではないのでしょうか。

この金沢大会であった友達を大事にし、そしてこれからもお互いに心を開いて話し合える、パーティーコミュニケーションの場を作って行って下さることを心から希望します。

最後に、素晴らしいコミュニケーションの場を作ってくださいました金沢青年印刷人クラブの皆様温かい心配りに感謝申し上げますとともに、2月17日、東京セミナーでの再開を楽しみにしております。

—次代を担う青年印刷人全国から350名が金沢に参集—

## 全国印刷緑友会金沢大会



第32回全国印刷緑友会  
金沢大会 実行委員会

白井 秀幸

金沢青年印刷人クラブ主管のもと、8月26日(土)金沢市文化ホールにて、第32回全国印刷緑友会大会が盛大に開催された。当日は全国から37グループ約350名の次代を担う若き青年印刷人が一堂に会した。

大会は高桑秀治君の開会宣言で幕開け、今年度緑友会会長城戸憲次君より、緑友が緑友から学び、それをお返しをする。その繰り返しは緑友道場の真の姿だ。と挨拶があり、引き続き白井秀幸大会実行委員会長の挨拶があり、その中で新しい時代に生き抜くために、経営に新しい手法を、営業に幅広い視座を、生産に技術の革新をと、この大会を機に人のネットワークを大切に情報ネットワークを拡めようと述べた。その後、石川県知事、金沢市長、商工会議所副会頭をはじめ、福島茂一石川県印刷工業組合理事長からお祝辞をいただいた。この後、15:00より記念講演として、王子製紙(株)の千葉一男社長を講師に約一時間半にわたり「製紙、印刷業界の展望」という演題で講演され、会場の聴衆にわかりやすく、現状と今後の予測を語られた。また、佐賀県印刷人若楠会の宮地敏昭君(株)宮地印刷社長)が事例発表を行い、「受注産業から情報産業をめざして」をテーマに熱っぽく会場の人々に語りかけ、私達に夢とロマンを再認識させた。

式典終了後、全員が文化ホール前に並んで記念撮影、会場を東急ホテルに移して懇親会が開催された。金沢青年印刷人クラブ代表幹事永野博信君より歓迎の挨拶の後、全国から集まった緑友会のメンバーが互いに杯をくみかわし、和やかな歓談を交えた。

翌朝は6時から早朝ミーティングが行われ、午前9時に閉会した。この後エクスカージョンでは、城戸憲次会長はじめ、多数のメンバーが能登半島観光を楽しみ、夕方解散し、金沢大会は無事終了した。

—— ご協力たいへんありがとうございました。

# 第32回全国印刷緑友大会



▲王子製紙株式会社  
代表取締役社長  
**千葉一男氏**  
「製紙・印刷業界の展望」



▲佐賀県印刷人若楠会  
株式会社宮地印刷  
代表取締役  
**宮地敏昭氏**  
「情報産業をめざして  
100億円への挑戦」



城戸会長のごあいさつ▶



◀懇親会も盛大に開催された

## 城戸会長北国で熱弁



北国旭川は「ナナカマド」の街。真赤に色づいた実が灰色の空と奇妙なまでの美しいコントラストを描く。

晩秋の10月21日全国印刷緑友会会長城戸憲次君は空路千歳入り、高速道路の快適な走行、自然美の広さを満喫しながら旭川入りとなる。

北海道は余りに広大であり、商圈は互に守り、隣町の仕事を無理してまで受注する事は少ない。しかし、最近の札幌の膨張、発展は著しく、マーケットとしての将来性からして地方印刷業者の大手の参入、進出が徐々に認められる。

緑友会の組織は北海道では「札幌青年印刷人の会」だけであり、九州と比較しても余りに少ない事を会長在任中から心を痛めていた。

経済基盤も弱く、印刷受注額、出荷額とも全国の平均よりも立遅れており、零細企業が大多数であり、後継者も少ない実態からして青年印刷人の組織が結成されない環境下にあります。このような近年の状況の中で旭川市内の若手経営者で組織する「十二日会」が活発な活動をしている事を伺い、何んとしても緑友の組織に加入していただくべく植平会長とも相談の結果、まず、札幌のメンバーと交流会をしようという事になり、その準備に入りました。早速城戸会長とも連絡をとり、緑友会会長として、ポリシー、歴史、活動状況、組織等を大いに語ってもらおうという事になった。彼はカバンに多くの資料を持ち素朴な中に、独特の語り

で、熱弁をふるわれる。当然のごとく、旭川のメンバーの心を動かし、数々の質問が投げ掛けられる。その瞳はまるで少年のような輝きなのである。

心をゆるしての語らいは、時間を忘れ、白熱しリラックスなムードの中で好意的な感触が伝わってまいります。旭川に緑友の灯をつけるのはそんなに遅くないという期待をいだかせた会合であった。

地方印刷業者は、得て知て、中央の動向、情報が入りずらく、井の中の蛙であります。グローバルな見地から積極的に緑友の組織を通し、人格の形成、人と人との交流、新鮮な情報の収集を積極的に手掛けなければならない、目まぐるしく変わる印刷界の実態を研究、勉強するには緑友の組織が最高であります。

日本全国まだまだ未組織、未加入グループが沢山あります。私達メンバーは常に加入促進に心掛け、その橋渡し役をしようではありませんか。



間もなく念願の緑友インフォメーションが完成します。これを契機に更なる組織の拡大強化に努めることもメンバーの責務であろう。会長の心意気を体し、おしまない協力をしようではありませんか。

緑友会常任幹事

札幌青年印刷人の会 会長

竹内 一博



## 第2回全国緑友 グループ長・常任幹事会開催される

平成元年8月27日、午前7時より金沢東急ホテルにおいて第2回グループ長・常任幹事会が開催され40名が出席し、下記のように報告及び議題が熱心に討議された。

1. 新加入グループ報告（大牟田印刷組合青年部）
2. 東京セミナーについて（2月17日・グランドパレス）
3. 愛媛総会について
4. 緑友会インフォメーションについて
5. 総会、大会、セミナーの位置づけの研究確認



## 第33回全国印刷緑友会

# 名古屋大会

御案内



実行委員長  
西川 誠也

真ん中であって、個性があって、ユーモアがあって、人間が人間であること存在証明でもある“へそ”。次回の全国印刷緑友会は、そんな日本の“へそ”といわれるわがふるさと・名古屋で開催されます。

名古屋城、テレビ塔、100m道路 栄・名駅のビジネス街と繁華街 山手・四ッ谷通りの若者の街、懐かしの下町大須&円頓寺、ニューセラミックス・宇宙開発等の先端産業、中部新空港計画、21世紀万博構想、そして目下大人気の世界デザイン博。歴史あり、芸術あり、庶民の暮らしあり、若者の風俗あり、先端科学あり。エンターテイメント・シティ、名古屋！

来年は、こんな名古屋にぜひ来ていただきたいのです。そしてこの機会に、本音で悩み・将来の夢を語り合い、真の友人を見つけるための心の交流をはかりたい。私たち名古屋而立会68名がお世話をさせていただきます。

と き／1990年9月1日(土)・2日(日)

と ころ／名古屋キャッスルホテル（名古屋城前）

と ま り／名古屋キャッスルホテル・名古屋キャッスルプラザホテル

主 管／名古屋而立会

第33回全国印刷緑友会

**愛媛総会**

御案内

『春や昔、十五万石の城下哉』松山を象徴する俳人、正岡子規の代表句で知られる『いで湯と文学の町』松山にて第33回全国印刷緑友会総会を主管するに当り、開催の地を緑友の交流の場にふさわしい、約3,000年の歴史を持つ道後温泉に定め、温泉の情緒あふれる雰囲気の中、裸の心で交流を深めたいと思っております。会員の皆様の御参加をお待ち申し上げます。

主催／全国印刷緑友会  
 主管／愛媛印刷人青年会

■全国印刷緑友会愛媛総会実行委員会事務局  
 〒790 愛媛県松山市湊町7丁目1-8<岡田印刷機内>  
 Phone(0899)41-9111 FAX(0899)32-1199  
 実行委員長 岡田 浩治



TIME : '90.5.12SAT・13SUN  
 PLACE : 道後温泉 宝荘ホテル  
 松山市道後鷺谷町2-20  
 Phone(0899)31-7111代

スケジュール

5月12日(土)  
 13:00 登録受付  
 14:00 総会  
 16:00 記念撮影  
 16:30 トーキングタイム  
 18:00 湯情タイム  
 19:00 懇親会

5月13日(日)  
 6:30 グループ長会議  
 登録料／会員・OB……20,000円  
 同 伴 者……15,000円



松山への交通

■航空路  
 東京から……80分  
 名古屋から…60分  
 大阪から……45分  
 福岡から……40分  
 宮崎から……45分  
 鹿児島から…50分  
 沖縄から……105分

■船 舶  
 尾道から 1時間25分(水)  
 岩国から 1時間30分(高)  
 広島から 1時間00分(水)

(水)／水中翼船  
 (高)／高速船



---

全国印刷緑友会機関誌「緑友」第71号

〒310 水戸市見川町2558-21

TEL.0292 (41) 2525

発行人 城戸 憲次 (茨城印刷緑友会)

編集人 千代田印刷人新世会

---